

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4390100099
法人名	社会福祉法人 熊本厚生事業福祉会
事業所名	グループホーム ほたる家
訪問調査日	平成 19 年 7 月 23 日
評価確定日	平成 19 年 8 月 27 日
評価機関名	特定非営利活動法人 ワークショップ「いふ」

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年8月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4390100099
法人名	熊本厚生事業福祉会
事業所名	グループホームほたる家
所在地 (電話番号)	熊本市河内町野出1948-2 (電話) 096-277-2289
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本市水前寺6-41-5 千代田レジデンス106
訪問調査日	平成19年7月23日

【情報提供票より】(19年6月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 7 月 20 日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8人 常勤 8人, 非常勤 人, 常勤換算 7.25人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	780 円		

(4) 利用者の概要(6月20日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 83.1 歳	最低	76 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三和クリニック・聖ヶ塔病院・坂元ハロー歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成18年、老人福祉施設リバーサイド・老人保健施設てんすい倶楽部・グループホームへたみ家の姉妹施設として、河内町のみかん山を望む自然の中に誕生。明るく清潔なホーム内は段差もなく、リビングを中心に居室と居室の間には広いトイレを五か所に配置する等、生活のしやすさへの工夫があります。また、利用者の趣味の作品を額に入れて壁を飾るなど、温かい雰囲気を醸し出す努力が見られ、隣接する福祉施設で趣味のクラブ活動に参加したり、裏庭の菜園作りで若かった頃の生活を思い出す仕組みを作る等、散歩や外出などの他、入居者の自由な生活や活動に対応する日課の構築があります。さらに、同一法人の施設との交流で職員間の知識や情報の交換があり、働き甲斐のある職場づくりへの努力が見られます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 初めての外部評価を受信するに際し、姉妹グループホームの過去の評価結果を参考に、全職員で改善点を検討する等、ホームの質を高める前向きな姿勢が伺えます。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価の意義・方法をミーティングで話し合い、自己評価を全職員で取り組むなど、早くからの取り組みを実施し、問題点や課題を発見して改善計画に結びつける等の工夫がみられました。問題意識を持ち、自らの職務を見直し、ケアの質の向上に繋げるスタッフの連携に努力が注がれています。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 過去2回の運営推進会議では、ホームの概要や認知症についての理解を深めることを中心に開催。また、警察や消防に協力を依頼し、危機管理を含めた安全対策への協力強化に推進会議を活用し、会議で出された家族からの要望を受ける形で趣味活動の拡大が図られました。さらに、今回の外部評価を会議で報告し、関係者間で情報を共有しサービスの質向上に繋げる対応も計画されています。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 入居者にはそれぞれ担当職員を決め、家族が来訪された際は個別に情報交換し、意見や要望を収集する努力が記録等から見られます。定期的な報告実施の他、随時連絡を取り、収集した情報や意見はミーティングや日誌等でスタッフ全員が共有し、ケアの充実へ結びつける対応が図られています。九月には家族会の立ち上げ予定もあり、今まで以上の家族との連携が期待されます。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 幼児とその保護者、小・中学生との交流や、隣接する老人福祉施設に通所する地域の友人と共に参加するクラブ活動を通じた触れ合い等、幅広い世代との付き合いで利用者や地域との繋がりを支援しています。また、地域の催しへの参加や日常の散歩、買い物、外食など、地域の中での生活継続に力が入られています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームとしての運営理念に、地域密着型サービスに対応した「地域に根ざした支援」を加え、地域の人との交流と、地域の中での生活を大切にしたい理念を作り上げています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の浸透と確認を図るために、カンファレンスで日々の実践と取り組みについて話し合いが持たれています。また、事務所内に理念を掲示し、朝礼で唱和し、具体化に向けての意識付けが行われています。	○	理念は事務所内だけ出なく、来客の目に付く玄関やリビングに掲示したり、ホームページやパンフレットに記載し訪問者に説明することで、基本理念の更なる意識付けになると思われます。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	山間地域に立地するホームで、地域から孤立することないように、花火大会や福祉祭り等の行事に参加し、地域の人との交流を深める努力があります。また、食生活推進委員を招いてのおやつ作り講習会や、育児サークル、保育園児との交流、中学生の職場体験を受け入れる等、幅広い世代と利用者の交流支援が多様に取り組みられています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を職員に説明し、自己評価に職員全員で取り組むことで、気付きをサービスに活かそうという姿勢が伺えます。全職員が100項目の自己評価を行ない日々の職務を見なおす中で、問題点や課題を再発見し、仕事に対する職員の意欲向上につながっていることが、職員への聞き取りから推察されました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果を運営推進会議で公表し、サービスの質の向上へ取り組もうとする積極的な姿勢が確認できます。過去1年間で開催された2回の会議では、グループホームの概要説明や認知症の理解に努めるとともに、利用者家族からの要望を検討し、趣味活動の充実に繋げる等、会議の有効な活用が図られています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村委託の包括支援センターが同一敷地内にある利点を活かし、包括主催の研修に参加する等で交流を図り、連携に努めています。西保健福祉センターの機能を活用し、育児サークルと入居者の交流に繋げる積極的な取り組みも見られます。	○	地域密着型という新しいスタンスと活用法について、市の福祉課とも密な連携で取り組んでいくことを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回は手紙による報告を行い、家族に入居者の様子を伝え、コミュニケーションを図っています。入居者に変化があるときは随時の電話連絡を行っていることから、家族もおおむね満足していることがアンケートから伺えました。家族の来訪時には担当の職員を中心に報告に努めています。	○	職員の異動では、入居者と安定した関係作りから家族に早めの報告することが安心感にもつながると思われま す。また、家族への手紙に入居者の行事等での写真を同封するなど、より丁寧な報告になり、家族との交流も深まると思われます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へ家族の自由な出席を求め、多くの意見をくみ上げようとする意欲が見て取れます。家族訪問時に聞かれた意見や要望は個人記録、申し送りで職員間で共有する仕組みが見られました。	○	家族会が9月に発足の予定があり、個人では言いにくい苦情・意見に関して、家族会の意見として積極的にくみ上げられる体制作りに期待が持たれます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、職員の退職1名異動1名で、利用者とのなじみの関係を疎外しない配慮で、職員の異動を最小限に抑えられていました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の教育委員会による多様な研修が用意され、全員が参加しています。外部研修も、職員による自発的な参加がみられ、職員の高い意欲と法人の支援体制が伺えます。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本市内のグループホーム連絡協議会に参加し、情報交換につとめ、ケアの向上に繋がっています。同一法人内のグループホームとの交流も積極的に行っています。これからは他のホームとの相互交流や見学を通じ、よりサービスの向上に努めたいと意欲的な姿勢が見られました。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム利用前の相談に対してはは自宅や病院・施設まで出かけ、本人や家族と十分話し合い不安の払拭に努めています。入居前は可能な限り併設の特別養護老人ホームのショートステイを利用してもらい、ホームの職員がその場に出向き、馴染みの関係を徐々に作る工夫をしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、料理の味付け、洗濯物のたたみ方、菜園活動等において入居者から学ぶ姿勢を持ち、教えてもらう場面作りができています。台所で職員と入居者が並んで洗物をしている和やかな姿を確認できました。そこでは介護する人、される人といった差異が感じられない協働が見受けられました。	○	開設2年目で、入居者もホームでの生活になれてきたと思われれます。日常的な関りに加え、梅干漬けやラッキョウ作り等、職員と入居者が共に楽しみ教え合う場面を一層作っていかれることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に生活歴や家族関係、趣味等を聞き取り、基本情報に記載し、その人らしい生活の支援に役立っています。また入居者の思いや希望を日ごろの会話の中から汲み取り、意向の把握に努めていることが経過記録の書き込みから確認できました。さらに、唯一の男性入居者の自尊心に配慮して、食事の増量、居室の振り分けや一人になれる空間作り等、細やかな心配りも見られました。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族、担当職員、看護師、必要に応じて理学療法士等の多職種からなるカンファレンスを行い、それぞれの気付きやアイデアを出し合い本人本位の介護計画が作成されています。入居者一人ひとり異なる生活歴やADLにあわせて具体的な個人目標が設定されていました。	○	作成された介護計画は、遠方に居住する家族へは出来るだけ速やかに送付し電話等による説明が期待されます。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員間のカンファレンスはよく行われていますが、現在までに入居者の日常生活動作に大きな変化が見られないことから、現段階では新たなケアプランの作成が見られませんでした。	○	変化がないと思われる入居者に対しても、職員や家族の気付きを基に、予防的な観点からの検討を期待します。新たなケアプランの作成でなくとも、見直しの実施日と気付きを追加すると後日の参考になると考えられます。
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出の支援を始めとする利用者のニーズに応え、多機能性を充足させています。認知症の相談等の対外的な要望にも応じる用意があります。	○	運営推進会議等を通して地域の要望を汲み取り、地域から要求される多機能性について考え対応される事を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医との関係を大切にし、本人や家族の希望する医療機関での受診を支援しています。基本的には家族同行の受診となっておりますが、入所時に重要事項説明書でその旨説明し理解を得ています。受診の結果は家族と職員で共有しています。契約歯科の訪問診療があり、楽に受診できる取り組みもなされていますが、受診料は個人負担となるため、必ず家族等の意思を確認する等の配慮が見られました。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入退院を繰り返す入居者に関しては、家族や本人との話し合いを行い、思いを尊重した支援に繋がっています。現在は元気な入居者が多いことから、終末に対する対応指針の作成等は今後の対応となります。	○	ターミナルへの対応についての方針は家族、職員間での共有には至っていないようです。今後、利用者や家族の安心のためにも終末に関する対応指針を作り、本人や家族と話し合いを重ね、思いに沿った支援が出来る体制作りが期待されるところです。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮し、記録等は事務室内で行い、他人の目に付く場所へ放置しない等の対応が見られました。法人の教育委員会で接遇について研修を受けるとともに、ホーム内の勉強会でも職員の意識向上を図っています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの趣味や希望を大切にし、個別性のある支援がなされています。朝のレクリエーション、体操等も自由な参加が大切にされ、のびのびした様子が確認できました。一日に頻回の散歩や自宅畑への訪問見守り等、個別の希望に職員が対応可能な限りの支援が行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	限られた人にはなりますが入居者も買物に同行し、食材選びや荷物運びに活躍する場面が作られています。調理、片付けも出来る範囲で入居者が参加できるよう声かけや援助を行う様子が確認できました。職員と入居者が丸いテーブルを一緒に囲み、楽しく食事出来る雰囲気が作られています。菜園で収穫した野菜を使ったメニューも、入居者の食べる意欲を引き出す工夫になっていました。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	なるべく本人の希望に沿った時間帯に入浴できるよう、遅出の職員の勤務時間内は、夜間の入浴希望にも対応する努力をしています。入浴拒否がある人には無理強いのことなく、原因を考え対策を立てています。広い浴室での一人ずつのゆったりとした入浴で、くつろいだ支援が伺えます。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	併設の特別養護老人ホームの協力があり、俳句、短歌、習字、生花等の趣味活動が充実し、持てる力を発揮できる支援がなされています。畑やプランターでの野菜作りも、以前の生活経験を活かす取り組みとなっています。職員は入居者の趣味を理解し、手芸の材料の提供を行ない、作品を額に入れホーム内に展示する等、楽しみ事を作り出す働きかけがよく行われています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に沿った散歩や買物を始めとし、動物園やいちご狩りなどの楽しみや、豊かな社会生活の一環としての外出も取り入れ、気分転換や生き生きとした生活の提供が工夫されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、入居者の自由な出入りが保証されています。職員は入居者の外出に対し、モニターやセンサーに頼ることなく、注意深く見守り対応し、散歩への同行など、鍵をかけないケアの実践が見られました。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得た訓練を年2回、独自の訓練を年1回実施しています。地域の協力体制については運営推進会議で協力を呼びかけています。今後地域の人たちの避難体制を作りたいと意欲的に取り組む姿勢が見られました。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事やおやつ以外の時間に、入浴や行事の前後等に水分摂取を意識的に行い、のどの渇きを訴えにくい入居者への配慮がみられます。各居室内にも、水筒やペットボトルが準備され、個別の水分補給も行われています。献立は管理栄養士のアドバイスを受け、偏らない工夫をしています。食事や水分の摂取記録もあり、職員は入居者毎の適量を把握し食事提供に活かしている様子が確認できました。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	バリアフリーの室内は入居者の作品や写真がさりげなく飾られ、我が家らしい温かい空間になっていました。全体に不快臭もなく清潔が保たれ、職員の努力が伺えました。装飾に季節感を出す工夫を行っています。廊下や玄関近くにちょっと座れるスペースも用意され、一人になれる空間作りが行われています。入居者の昼寝にも利用される畳コーナーには、これから座布団やクッションなどを用意されるとよいでしょう。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具が持ちこまれた居室や、自分の作品、大切な小物、写真等で飾られた居室等、それぞれの入居者に沿った一律でない部屋作りの支援が確認できます。家族と相談しながらその人らしい居室になるよう取り組んでいます。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ほたる家
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県熊本市河内町野出1936-1
記入者名 (管理者)	野口 博司
記入日	平成 19年 6月 19日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気を持ちながら、入居者の一人一人の能力を活かした自立支援を行い、地域に誇れる施設を目指し、1人1人を大切に、生き生きとした生活が送れるよう支援する等の事業通りの理念を作っている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有する為、職員皆で1週間に1回復唱し、徹底している。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	グループホーム運営推進会議の中で、地域密着型としての施設の役割を訴え、家族や地域の方たちの理解を得るように取り組んでいる。	<input type="radio"/> 今後は、家族や地域との交流会等の場を増やし地域の集まりでも理念をつたえていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	併設の特養老人ホーム等の行事や地域のお祭りなどに参加し、ふれあいの機会を出来るだけ作っている。また、地域在住の職員が関係作りをしている。	<input type="radio"/> もう少し気軽に立ち寄れるようにしていきたい
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方の働きかけで、県食生活推進委員の方たちが来て下さっている。又、地域の行事や小・中学校との交流会を行い、楽しい時間を提供している。	<input type="radio"/> 今後は、地域の老人会等に来訪を依頼していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	併設の特養老人ホームが行なっている家族介護教室「お元氣かい」に職員が参加し、地域に貢献している。	○	今後は、職員の知識を活かし、認知症についてや認知症の介護方法等地域の介護者等に伝えていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングの時に外部評価の意義・方法・説明をしている。また、同法人系列のGHの(評価3回うけた)第3者評価をアドバイスを受けて取り入れている。	○	今回の評価をもとに、今後の改善の為の計画書を作成し実施していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2回行なった。その際にあった意見・要望にはすぐに取り入れている。(趣味的活動の俳句・書道・生花など)又、会議の時に報告をさせていただいている。	○	運営推進会議では、活発な意見が出ているのでサービスの質の向上のために出した意見をもとにミーティングを行い対応していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者とのかわり、運営推進会議の市町村委託の包括支援センターが同じ敷地内にあり、情報交換とアドバイスをいただいている。	○	地域包括支援センターとは今後も定期的に交流を行っていききたい。また、西保健福祉センターや介護保険課とも交流を行いたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	同法人の併設している老人ホームで勉強会があるが、勤務の関係で全員が参加できず、不十分な点がある。	○	権利擁護に関する研修に職員が参加したいと考えている。また、研修参加後に伝達研修を行い必要に応じた対応が出来るように準備したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現状では、職員個人が高齢者虐待防止法等の知識を得ている程度である。	○	抑制廃止委員会により指導、養育を行なっていく予定としている。委員会主催の勉強会等により、知識を習得し、実施していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>現在苦情としては上がってきてはいないが、小さな意見などすいあげられる様に職員全員に意識づけをしていきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	13と同様	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	○	<p>GHの職員だけではなく、各事業所の中で広く関わりを持つ努力を行い、数名の職員から法人の中で広がり、顔なじみを作っていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育委員会の管轄の下で、各事業所の新人教育に関するカリキュラム作成し、実施している。H19年は中堅・リーダーに関して、カリキュラムを作成する。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人のGHと連絡・交流し、情報交換やアドバイスをいただいている。又熊本市内のGH連絡協議会へ所属し、2ヶ月の1回の会合や勉強会へ参加を必ずし、他GHの情報を受け、ケアに活かしている。	○ 他GHの情報や見学をさせて頂き、サービスへの向上へとつなげていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	6ヶ月毎の面接の中で、職員の思い・なやみを個人的に聞き、対応している。また、法人でのバレーボール大会や職員旅行などを行い、ストレス改善につとめている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人全体でモチベーションアンケートを実施。個人個人のモチベーションチェックを行い、今のモチベーションの把握と優先するモチベーションの把握を行い、個人個人の対応を深めている。(管理者)	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期の相談に対しては、本人との面談が必要と思われるので、在宅や病院、施設等に出向いて本人の訴えを十分に聞き対応している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からは、電話による相談が多いので電話で家族の困っている点を十分に聞くようにしている。電話では話しにくい部分もあるので、希望により在宅や病院、施設にも出向いて家族の困っている事や不安な事等話を聞くようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	経験のある職員が家族の思い・本人の状況をまず聞き、たくさん情報をとることから行う。この方の必要な支援はなんなのかを判断、アドバイスしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご入居前に他のサービスを使い、その利用時に声をかけ、見学していただき、顔なじみになっていただく。また、可能であれば同法人のショートをご利用いただき、その際GHでの交流の場を作っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	残存能力を活かすための作業(料理・洗濯物たたみ、干し・園芸)など教えていただいて、笑い声もよく出て、職員も勉強になっている。介護している意識ではなく、一緒に生活を過ごしていく手助けをしているという思いでいる。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で連絡をとり、「こういう課題があるがどうしましょう」と一緒に考えている。来苑時一緒に話す機会を作って考えて頂いている。	○	家族によっては、親身になってくれる家族と、そうでない家族があり、そうでない家族に対しては工夫が必要ではないか？ 今後はしっかりコミュニケーションをとり、出来る範囲のご協力をお願いしたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	出来るだけ家族の負担を減らす等の考慮しながら、面会などはこまめに来て頂けるようにしている。ご本人は家族来苑をとても喜ばれている。関係も良好。	○	行事などを取り入れ、家族へ来て頂けるよう工夫をする。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	交友関係が広く、深い方は知人・友人の面会あり、必ず、また来てくださいと声を掛け、良好な関係が築かれるように支援している。	○	面会の少ない方については、生活されてきた自分の家に故郷訪問ができるように支援して行きたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	トラブルになった利用者同志にせず、職員が間に入りコミュニケーションをとり利用者同士の関係を築くようにしている。また、レクリエーションでも関わりを持つようにして孤立させない工夫をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご退去されても医療機関などに面会に行ったり、以前利用していた介護サービスの職員が本人・家族へ声を掛け行うなど気がかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを知り、ケアプランの中に反映させている。何気ない会話の時に本音が聞けたりするため必ず記事に残し、家族へも伝えるよう努力をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時に情報収集に努めている。生まれた時から学生の時、若い時の仕事や、結婚、子育ての事など支障のない限り聞いている。また、本人様からも昔の話をされる事もあり、記事に残している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	いままでの生活歴を把握した上で、人生の歩みを職員が把握しながら、一人一人の生活スタイルを観察し、ADLの変化がないか等、記録を行い、申し送りしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当、本人、家族から情報収集を行い、職員がカンファレンスを施行し、ケアプランを作成しているが、必要であれば、同法人の理学療法士等、多職種をいれて、専門的な違憲をだし合い、ケアプランへ反映させている。	○	今後は以前の生活が反映された内容のケアプランとしていきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現段階では、日常生活動作の大きな変化はなく、ケアプランの作成までは至っていない。	○	今後は、更に活用しやすいケアプランの様式に変更したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日様子や会話内容から気づきなど、個別記録に残し、職員全員へ情報の共有を行ない、ケアに反映させている。	○	記録は、具体的なものでケアに反映できるように職員の技術向上に努めていきたい。また、記録に基づいたプランの作成に努め、実践に反映させたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現段階では、他のサービスの要望はなく、ご本人・家族からの希望も聞かれてない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方や、小・中学校との交流会の場を設けたり、運営推進会議等で消防・警察等の協力をあおいでいる。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同法人の敷地内にあるケアマネージャー等と連絡をとり、情報交換やアドバイスをいただいている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	同敷地内に地域包括センターがあり、情報交換やアドバイスをいただいている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向をふまえ、受診の際は家族等の希望にそった医療機関への受診を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>今までは1人の精神科の医師のフォローをしていただいたが、その他の利用者の方は、内科の医師のフォローで経過中。</p> <p>今後は、同法人の施設協力病院である城山病院(精神科)の協力を仰ぎたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>看護職員は1名常勤である。不在時でも連絡は可能。また、併設の特養ホーム兼務の看護師に依頼し、協力体制を整えている。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>GHのリーダー職員か看護師が、病院関係者と情報交換を行なっている。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>状態の悪化時は、かかりつけ医師の協力の下、本人・家族・GH担当者が、話し合いを行い、ご本人と家族の意思を尊重し、その結果を受容し、方針の共有を行なっている。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>体調悪化時は医師と連携をとり、往診や家族への協力に対応している。現在までにターミナルのケースはない。</p> <p>今後はターミナルを希望された時の準備のため、事業としてできないことを見極め、かかりつけ医、看護職員、家族と話し合いを行いながら対応していきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>家族や関係機関の方たちと話し合いを行い、ダメージが最小限におさえるような配慮をしている。自宅での生活環境を家族に聞いたり、事前に訪問し、本人の部屋に近づけるように努めている。</p> <p>グループホームから施設への住み替えも出てくると考えられるため、ホームでの生活状況を詳細に伝達したり、現在の部屋等をできるだけ再現できるよう支援していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	教育委員会の勉強会主催で接遇の勉強会があり、失礼の無いような声かけや対応を心かけている。職員会議で検討したケースもあり、職員全員へ周知徹底している。個人情報に基づき、リビングなどのテーブルに記録物をおかないように心掛けている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ゆっくり、わかりやすく説明し、ご本人の意思を尊重している。自分で決めかねられるときは、選択肢を与えた上で本人の了解を取っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・レクリエーション以外は自分の好きな場所で一人一人のペースで、過ごされている。散歩などの希望があれば、時間を調整し出来るだけ、すぐ対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	GHの協力理容店へ依頼、GH内で対応している。ご本人や家族の希望の店はない。	○ 今後、本人が希望される理容・美容院が出てくれば対応していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べるだけではなく、台拭きや野菜の皮むき、片付け、盛り付けなど利用者一人一人の能力に応じた活動を行なっただけ、達成感をもたせている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好きなメニューを聞き、食事に取りいれている。また、現在は喫煙される方やお酒を希望される方はいない。会話の中でおやつ等で「これが食べたい」とおっしゃった時は、お買い物にお連れし、希望に答えるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	夜間の排泄チェック表を取り入れ、トイレの声掛けを行なっている。また、排泄パターンの把握をするためアセスメントを行なって、オムツ減らしを目指し、経済的面でも家族の負担を減るよう努力している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご本人の要望に沿って、お一人お一人の希望を取り入れている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて、温度や環境調整、電気の明かりなど安眠できるように工夫している。 昼寝等の生活習慣のある方には、居室のベッドや居間の畳上で休息したり、ゆっくりできるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事的な作業や以前されていた趣味的活動を取り入れている。また、外出の機会やホーム内での催し物など行事も積極的に行い、刺激をもたせている。 農家で野菜作りの経験のある方には、菜園活動など行い収穫を喜んでいただいている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方(4名)はおこづかい程度は所持されているが、他の方は、ご家族で管理されている。また、小額所持されている方は、お買い物の時お連れし、自分の買いたい物を購入できるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望があれば、時間や車両の調整を行い、外出や散歩にお連れするように、努力している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族は多忙で、家族と共に外出することは難しいが、施設行事として、動物園やイチゴ狩りなどご本人様の要望を聞き、施設が外出の支援を行なっている。	○	施設行事に参加を促し、本人・家族が共に出かけられる機会を作りたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が訴えられる時は、職員が電話をかけている。途中で代わり、お話しされる。家族より電話がかり取り次ぐこともある。また、絵手紙教室で自分で絵手紙を作成し家族宛にだした。家族より返事の電話があり、喜ばれている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時来苑時は自宅でお客様を迎えるように、お茶・お菓子をだしたり、元気よく挨拶をしている。リビングや居室、面会室など希望によって利用していただきゆっくりできるよう工夫している。また、お越しく下さいと声を掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制委員会の管轄のもと、身体拘束についてのマニュアルを作成しGH内の抑制委員が中心になり、勉強会を行なっている。現在抑制している入居者はいない。	○	今後は職員全員が、把握し理解した上でケアを行なうことを徹底させたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	当施設では、居室に鍵はない。また、日中玄関に鍵をかけることもない。自由に出入りができるようになっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間の離設の危険性や転倒の危険性がある方は、特に注意して、巡視を行い所在確認を行なっている。職員間で声をかけ、利用者の方の安全を提供している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご利用者からの要望に応えられるようにハサミ、包丁を保管場所を決め、取り出せるようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒・誤薬などのリスク委員会主催の勉強会に参加し、事故防止にかかる知識を得ている。緊急時のマニュアルを作成し、年1回教育委員会主催で消防署の方をお呼びし、緊急時の対応の勉強会を行なっている。事故やひやりはっと発生時は、インシデントアクシデントレポートを作成し、カンファレンスを行い今後の再発予防、対策につとめている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年1回消防署の方に来て頂き、緊急時の対応や応急処置の勉強会を行なっている。又、緊急時の対応や緊急連絡網などのマニュアルを作成している。	○	まだ十分とはいかないので、施設外での研修会参加を呼びかけ知識や技術を習得したい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	H19年度消防(火災)の訓練は年2回行う予定(H18年度2回実施)地域の方などは、運営推進会議で避難訓練等の協力を訴えた。	○	運営推進会議等で消防署の方に来ていただき、簡単な避難方法を受けている。地域の方たちの避難体制作りを行いたい。現在話し合いをしている途中。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプランの中で、家族へ説明している。また、入居後の本人の状況にあわせ、リスクをケアプランへ盛り込み、職員へ周知徹底している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃よりお一人おひとりの日常の様子を観察し職員間の情報を共有している。変化のあった場合は口頭での申し送り及び申し送りノートに書いて職員への周知徹底を工夫している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに内服の効能などを保管している。4月は内服についての勉強会を行い、知識の習得に努めている。又、内服チェックは徹底し誤薬防止に努めている。	○	内服に関する勉強会は行っているが、今後も効用、副作用などの理解の為に随時勉強会を開催したい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜や乳製品を多めに取り入れ、便秘の予防に努めている。水分補給も定期的に行い便秘予防を心がけている。又、散歩などの運動を行い、自然排便を促している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個人の状態に合わせて、一日2回～3回食後に口腔ケアを行っている。拒否者は1回だったり、うがいでだけだったり個人のペースに合わせて行っている。週1回定期的に歯科の往診があり指導を受けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好まれる食事や飲み物を取り入れ、栄養面や水分量の確保をしている。又月1回は同法人の管理栄養士からアドバイスを頂いてる。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染防止委員会のもと、感染症対策に関するマニュアルがあり、毎日の手洗い・うがいを励行している。また、インフルエンザの予防接種を、入居者や職員共に実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日ふきんや包丁、まな板等塩素系漂白剤にて消毒し、感染防止に努めている。食材も賞味期限をチェックし、調理している。また、台所に入る場合は手洗い・うがいを励行し、食中毒の勉強会をして職員の意識づけをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	車椅子用のスロープをつけ、玄関周りには花や観葉植物などを置き、親しみやすい雰囲気作りを行なっている。また、清潔感を感じられるよう、清掃に気をつけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	童謡などのBGMやテレビなどの音量の調整を行い、居心地のよい空間作りをおこなっている。（3月 雛人形 5月こいのぼりなどを飾っている）		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり自分の居心地いい場所又は、思い思いのペースでゆっくりすごされている。又、誰かと話しがたくなったらリビングに来られる。本人の状態を見ながら、職員がお部屋の選択をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていたタンス類など持参される方もいる。新しく購入されているかたもあるが、家族の写真や本人の好きな雑貨などの小物を飾られている。部屋に入ると自分の部屋であると認識されている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に換気をし温度・湿度チェックを行っている。また一人ひとりにあわせて衣類や環境調整を行い、利用者の体調管理に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の残存能力を理解し、居室からリビングまでの歩行や入浴排泄時の機能維持や運動が出来るように工夫している。歩行補助具や杖等選択時は、同法人施設の理学療法士のアドバイスをうけている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの能力にあわせた作業(野菜の皮むき・洗濯物たたみ、洗濯干し、菜園活動)を行っている。混乱を防ぐ為、スタッフが必要に応じて見守りをし声をかけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周りに楽しんで頂けるように草花や畑などを作っており、自由に散歩できるようにしている。また、近くに農園も作られ、同一法人内の施設やデイサービス利用者と一緒に農園活動も出来る予定。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご本人の希望にあわせて、外出行事を多く取り入れている。
 又、サークル活動として、俳句、生け花、書道、デコパージュ、農園活動などを行なっている。
 保育園、小学校、中学校等の交流会を実施している。
 施設見学や実習生の受入れも積極的に受けている。